年中式時次第上（寛文十・十一兩年を以て記し之）

御黒書院の儀

一、寛文十年正月一日辰の後刻、御黒院へ出御。上段に御著座、緋の御裝束なり。御太刀本多土佐守、御刀大久保出羽守役す。甲府殿・館林殿御勝手方より出座、御太刀目錄にて御禮御吸物なり。御盃頂戴、吳服拜領なり。御作法例の如し。

御白書院の儀

一、御白書院出御。上段に御著座、尾張中納言殿・水戸宰相殿御太刀目錄を以つて御禮。次に松平越後守・松平加賀守・松平相模守御太刀目錄にて御禮。但し一人づつなり。順々に著座、御吸物・御盃頂戴、吳服拜領、御作法例年の如し。次に紀伊中納言殿在國に付き、名代安藤帶刀を以つて御太刀目錄進上、使者御目見。次に松平讃岐守・松平左京大夫・井伊掃部頭・松平攝津守・松平出雲守・酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・品川式部大輔・松平刑部大輔・松平播磨守・松平但馬守・松平右京大夫・藤堂和泉守・松平大和守・本多內記・阿部豐後守・稻葉美濃守・松平美作守一人づつ御太刀目錄持參、出座御禮。御盃頂戴、吳服拜領なり。次に松平中務大輔・松平飛驒守・小笠原遠江守・戸田采女正・內藤帶刀・久世大和守・土屋但馬守・酒井河內守・青山因幡守、一人づつ御太刀目錄持參御禮。御盃頂戴、吳服拜領。大廣間へ出御の刻、大廊下にて御詰衆・御留守居衆・諸奉行・諸番頭・諸役人、例の如く此所にて御禮申上ぐる面々、諸大夫並に三千石以上は御太刀目錄前に置き一同に御目見。大廣間へ出御。下段間の御襖・障子明き、下段に立御。御次の間伺候の面々、法印・法眼・三千石以上の輩は御太刀目錄を前に置き、布衣並に寄合又は御番衆各〻並居、一同に御目見。終つて御障子閉て上段に御著座、御銚子出づる。御前へ召上げられ、松平和泉守を始め諸大夫の面々御流頂戴、吳服廣蓋にて拜領。扨て左馬頭殿・右馬頭殿・尾張殿・紀伊殿・水戸殿家司罷出て御流頂戴、吳服拜領、終つて御銚子入る。土岐大膳・同主殿・同內匠右無官の高家、吳服廣蓋にて拜領、終つて入御。入御の刻大廊下に於て、林春常・人見友元・林春東・坂井伯元・久志本式部・同內藏介御目見。同所たまりに太刀目錄前に置きて、伏見勘七御目見。同時御白書院御次の間に、御小性組番衆・御具足奉行・御弓矢奉行・道奉行・御腰物奉

正月二日の儀式

行・御勘定衆御目見。同所南御疊縁に後藤本阿彌・狩野家・吳服所・諸職人進物前に置いて、一同に御目見。同時御黑書院御次の間にて、新御番衆・御膳奉行・御右筆衆竝居、一同に御目見則ち入御。大廣間御流の内御白書院に於て、吉良上野介・戸田土佐守・富山下總守・織田主計頭・上杉伊勢守・由良信濃守、吳服を臺に載せて拜領なり。是は御役ありて、御前にて拜領なきに依つてなり。本多土佐守・大久保出羽守・那須玄竹御奥に於て吳服拜領。是は御役有るに付いてなり。入御以後五銃子にて布衣の面々御流頂戴。其後七銃子に成りて、諸御番衆御流を下さる。御同朋頂戴終つて御銃子入る。二銃子殘りて板縁に下る、幸若觀世御流頂戴、御銃子入る。大廣間にて在國・在處の大名、在江戸の大名、幼少又は長病の面々名代を以つて、御太刀目錄を進上。松平越後守・松平下野守・保科筑前守・松平伯耆守を始め、名代の使者六十九人、御太刀目錄を持參、二人づつ出づる。老中列座、奏者番衆請取納る。今日吳服頂戴合せて二百九十三人。

一、二日辰の下刻御白書院へ出御。上段に御著座、緋の御裝束・御太刀本多土佐守、御刀石川美作守。尾張中將殿・水戸少將殿御禮御引渡し御盃頂戴、吳服拜領、御作法例年の如し。松平左兵衛督御太刀目錄持參、御禮吳服拜領。大廣間へ出御、上段に御著座。松平新太郎・松平大隅守・松平安藝守・松平陸奥守・森内記・宗對馬守・松平丹波守・伊達遠江守・松平出羽守・松平修理大夫・松平土佐守・佐竹右京大夫、右一人づつ御太刀目錄持參御禮。下段に順々に著座。御盃頂戴、吳服拜領、御引渡し御銃子入る。次に毛利甲斐守・松平信濃守・有馬中務大輔・松平筑前守、右一人づつ御太刀目錄持參、御禮御盃頂戴、吳服拜領。次に喜連川右衛門督出座、下段にて御禮御太刀目錄、吉良上野介披露。御次の間にて吳服臺にて拜領、雅樂頭傳へらるゝ。高家衆同列なり。終つて下段の間の御襖障子明け、下段に立御。御次の間にて諸大夫の面々・無官の高家、御太刀目錄前に置いて御禮、後座に昨元日に出仕なき御番衆竝居、一同に御目見則ち御障子閉ぢて上段に著御。丹羽若狹守を始め昨元日登城なき諸大夫の面々、二人づつ出座。御流頂戴、吳服拜領。畢つて御銃子入る。無官の高家畠山次郎四郎・蒔田左兵衛・今川大學出座、吳服拜領。終つて入御。入御の刻大廊下に於て、法橋・無官

の醫師・連歌師・岩船撿校・吉川惟足何れも竝居、進物前に置き御通りがけに御目見・同時御白書院御次の間御縁通りにて、御代官方鈴木修理・木原内匠・狩野圖書鞍打、井關次郎右衛門同所落縁に、御菓子屋・御酒屋・御被官御大工、此の外御扶持人・諸職人進物前に置いて一同に御目見なり。入御以後大廣間に於て、元日の通り諸御番衆御流頂戴なり。終つて大廣間に於て在國・在所の大名、在江戸の大名幼少・長病の面々、名代を以つて御太刀目錄を進上。佐竹修理大夫・松平薩摩守・松平大膳大夫・松平伊豫守を始め、外に名代十九人、御太刀目錄持參、二人づつ出座。老中列座なり。今日吳服頂戴合せて四十八人。御譜代大名衆大紋を著し、例の如く各〻登城なり。

正月三日の儀式

一、三日巳の後刻御黑書院に出御、上段に御著座、御熨斗目・御長袴。御刀松平内記役す。紀伊大納言殿出座、大禮御太刀目錄、酒田河内守披露、則ち下段に着座。御引渡し織田右近〔衍カ〕出御、御盃頂戴、吳服拜領。終つて御白書院へ出御。上段に御著座、織田右近御太刀目錄持參出座、終つて大廊下杉戸祭に出御。御樓の間より大廊下まで

大廊下杉戸祭に出御

に井伊吉十郎・松平千菊・佐竹右近を始め、無官の面々御太刀目錄前に置く。竝に左馬頭殿・右馬頭殿家老・城代の子ども十四五人當年始めて御禮に罷出て、一同に御禮終つて後、座に榊原熊之介家老榊原内匠・中根善三郎、奥平大膳亮家老奥平采女・桑名主馬、井伊兵部大輔家老松下源左衛門等御太刀目錄前に置いて竝居、御禮終つて御白書院間の御襖障子明け、下段に立御。御小性組御番所の前御縁通りに、江戸の町年寄三人進物前に置き、同所御番所の内南の御縁に江戸の町の名主數輩、進物品々前に置き、同所の落縁に上京・下京・伏見・淀・過書・大坂・堺・奈良の町年寄竝に總代、朱座・銀座・大黑長左衛門・十郎兵衛・墨屋若狹・秤屋守隨等、進物前に置き、一同に御禮申上ぐる。則ち入御。入御の刻同所北の御縁に大久保甚齋・永井道休・朝比奈休意等竝居御禮。同所後座御連歌の間の後に樽代百匹、岩松萬次郎御通りがけに御目見。入御終つて御座の間に於いて、柳生飛驒守・同大膳を召させられ、御兵法始め有りて退く。退いて以後兩輩に時服を給ふ。同時御馬の召初あり、終つて諏訪部彦兵衛・西川清左衛門兩人に時服を給ふ。細川越中守血忌、蜂須賀千松煩、上杉喜平次幼少に依つて、名代を以つて御太刀目錄を進上。今晩御謠初に付いて諸大名衆より、例年の如

御謠初の次第

く御盃臺使者を以つて進上。

御謠初の次第

尾張殿、水戸殿竝に御譜代大名出仕の面々暮に及び登城。酉の後刻大廣間へ出御、中殿に御著座、御熨斗目・御長袴、御刀は尾張殿・水戸殿出座御禮、酒井河内守披露す。則ち下段御向に著座、此時御次の間著座衆出づる。南方は松平和泉守・奥平大膳亮、北方は牧野飛驒守・本多越前守なり。　出御以前より板縁に居す。

初獻　御盃御引渡し御捨土器、尾張殿・水戸殿へも御引渡し出づる三方捨土器出づる。御次の間著座の面々へも引渡し出づる足打　御酌御加、御前へ召上げられ御加ありて、其御盃三方に載せ、御酌下段に控へある時、尾張殿出座、頂戴して復座。尾張殿前にある盃を御酌取りて手に載せ、水戸殿へ其盃手に載せて、御次の間著座。　松平和泉守より千鳥掛に通し御銚子入る。

二獻　御盃・御吸物御引渡しに替る。尾張殿・水戸殿へも御吸物出、引渡しに替る三方御次の間著座へも吸物出づる足打　御酌御加、御前へ召上げられ御加ありて三方に載せ

右の席に御酌控へある時に水戸殿出座頂戴、加へありて歸座。水戸殿前の盃を御酌取りて手に載せ、尾張殿へ其盃を手に載せ、御次の間北の方牧野飛驒守より、千鳥がけに通し御銚子入る。尤も御吸物引入る。御前の御捨土器は其のまゝ置く、此時御次の間著座の面々、膳を持つて退去。

三獻　蕗の臺御右の方に置く・星の物御左の方に置く御酌御加、御前へ召上げらるゝ時、酒井河内守謠ふべき旨を傳ふ。則ち觀世太夫四海浪を謠ふ。御加ありて其御盃を臺に載せて、右の席に御酌控ある時に尾張黄門出座頂戴、星の物の御肴を遣さる。中段まで參上して頂戴加へありて盃を持つて御次の間へ退かるゝ時、酒井河内守取つて臺に載せ、御酌に渡す。老松の御拍子始まる。御前へ召上げらるゝ時、尾張黄門中座ありて御禮、終つて復座。御前の御盃御加ありて臺に載せ、右の席に御酌控ある時に、水戸相公出座頂戴、星の物御肴を遣さる。中段まで參上頂戴。加へありて復座の時に水戸相公の前の盃を御酌取りて手に載せ、東の御敷居際に控へ、則ち御通りに成る。井伊掃部頭・松平右京大夫・松平出羽守・藤堂和泉守・松平大和守・毛利甲斐守・有馬中務

大輔・小笠原遠江守・戸田采女正・内藤帶刀等を始め、御譜代大名・御詰衆、一人づつ出座、御通り頂戴なり。此間に尾張殿・紀伊殿・水戸殿より進上の臺出づる。酒井河内守披露以後、御座の御右の方に置く。但し御兩殿より進上の臺は例の如く、出御以前より御左の方に置く。四獻・五獻・六獻・七獻・八獻・九獻。

十獻　高砂の拍子始まる。右御拍子過ぎて御通りに銚子、一同に引入。酒井河内守御緣に出座。白綾の呉服、觀世・金剛・七太夫に例の如く下さる。茲に太夫共に烏目千匹づつ、總猿樂に同二百匹づつの折紙を下さる。板緣に於て奏者御番衆之を渡す。

十一獻　松竹の臺、御酌御加、御前へ召上られ御加の時、太夫ども拜領の小袖を著し、弓矢立合を舞ひ、終つて御加ありて御納め御銚子入る。此時河内守罷出て御前の御肩衣を取つて觀世太夫に渡す。何れも肩衣を脫ぐべき旨、上意の趣河内守傳ふ。各〻一禮して脫ぐ。尾張殿・水戸殿へ御會釋ありて入御。各〻退去。

御拍子。老松、觀世八郎兵衞・三郎兵衞・新十郎・市右衞門　高砂、七太夫三右衞門・源介・清次郎・安兵衞

弓矢立合　太夫三人一同に舞ふ助九郎・小兵衞　長藏　以上

御盃臺御前へ出づる分、尾張殿・紀伊殿・松平越後守・松平加賀守・松平新太郎・松平相模守・松平讃岐守・井伊掃部頭・松平安藝守・松平陸奥守・松平大膳大夫・森内記・松平丹後守・松平出羽守・藤堂和泉守・松平土佐守・松平大和守・蜂須賀千松・上杉喜平次・毛利甲斐守・有馬中務大輔・本多内記・松平隱岐守・小笠原遠江守・戸田采女正・内藤帶刀・阿部豐後守・稻葉美濃守・松平美作守・酒井修理大夫・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正・青山因幡守・酒井雅樂頭等なり。

一、六日の巳の刻御白書院へ出御、上段に御著座、御裝束御太刀・御劍　御太刀目錄・御札三束三卷智恩院門跡、三束二卷增上寺方丈、一束一卷小石川傳通院、同斷新田大光院。右一人づつ出座御禮。最勝院崇源院殿別當・寶松院台德院殿別當・馬喰町本誓寺・西の久保天德寺・同所大養寺・淺草誓願寺・增上寺役者連的、同じく良我、御佛殿役者・常行院・壽光院、右各〻一束一本持參して御禮。一束一卷覺了院、一束一卷金地院、一束一本東海寺、右一人づつ出座御禮。過ぎて上段の御向障子明け、落緣に知門の家來三人、扇子箱前に置いて一同に御目見。終つて大廣間へ出御、上段に御著座。例年獨禮の諸出家、出御以前よ

七種の御祝儀

り竝居、一と通りに進物を置き、後の板縁に伊勢の内外宮社人、尾州津山・八幡・山崎の神主、鹿島・芝神明・神田明神等の神主竝に出御せざる以前より御具足を御床に飾り、御熨斗鮑・御餅・御盃出づる。御一獻の御祝ありて御銚子・御膳引入る、但し井伊掃部頭當年始めて著座御相伴を仰付けらる。松平讃岐守・同右京大夫・松平出羽守一人づつ御目見。本多内記・松平美作守一同、小笠原遠江守・戸田采女正・青山因幡寺一同に御目見。次に松平和泉守を始め御譜代大名五六人・七八人づつ罷出て御目見。過ぎて東の御縁通りに出御。高家衆・御詰衆此外出仕の面々山吹の間・ゐろりの間に竝居、一同に御目見則ち入御。入御以後御譜代大名・高家衆・御詰衆・奏者御番衆・諸奉行・御留守居衆・大御目附・諸御番頭・諸物頭・諸役人等、山吹の間・雁の間・芙蓉の間・菊の間・紅葉の間まで盃。

一、七日に七種の御祝儀として、一種一荷づつ御三人方より進上、巳の刻に御黒書院へ出御、御熨斗目・御長袴。御兩典へ御對顔。次に水戸宰相殿・尾張中將殿・水戸少將殿へ御對顔。次に松平讃岐守・松平右京大夫・松平美作守一人づつ出座御目見、尾張中

御具足の御祝

納言殿煩に依りて使者成瀬隼人正・紀伊中納言殿在國に依りて、使者水野對馬守を差上げらる。

一、十一日に御具足の御祝に付て、在江戸の御譜代大名衆・高家衆・御詰衆・諸奉行・諸番頭・諸物頭役人等登城なり。巳の後刻御黒書院へ出御、上段に御著座、御熨斗目・半袴なり。動院・大學院・山本坊此外處々の神主、御札・卷數竝に進物の品々前に置いて、一同に御目見。過ぎて出家・社人退座の内御納戸構入御。やゝ有りて重ねて下段御襖障子明けて、下段に立御、御次の間に諸出家、同板縁に出家・神主・山伏等竝居、前一通りに進物の品々を置いて、一同に御目見。終つて入御の刻御白書院下段に立御、御次の間に千人頭居す。御祓・熨斗春木太夫、御祓・熨斗山本太夫、一束一本萬福寺上州金一兩庄田隼人、扇子伊勢因幡、扇子伊勢傳左衞門、右一同に御目見。此外處々に於て御祝の餅・御酒熨斗鮑・各々頂戴終つて退去なり。

一、三月三日辰の下刻御黒書院へ出御。上段に御著座、御熨斗目・御長袴。甲府殿・館林兩宰相殿御對顔、次に右御兩殿家臣四人一同に出座御禮。御白書院へ出御、尾張中

納言殿・水戸宰相殿・尾張中將殿へ御對顏。次に松平右京大夫・松平左兵衞督御目見。次に松平美作守・青山因幡守御目見、過ぎて大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆御詰衆・奏者番衆・寺社奉行・御留守居衆、此外例の如く此所にて御禮申上ぐる。諸御番頭・同組頭・諸奉行・諸物頭役人等竝居一同に御目見、大廣間へ出御、上段に著御。松平越後守・松平加賀守・松平新太郎・松平大隅守・松平相模守・松平左京大夫・松平安藝守・松平出雲守・森内記・松平但馬守・伊達遠江守・松平出羽守・松平修理大夫・藤堂和泉守・松平土佐守・佐竹右京大夫・本多内記・松平中務大輔・松平飛驒守・毛利甲斐守・松平信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・松平筑前守・蜂須賀千松・戸田采女正・内藤帶刀、右一人づつ出座御目見。終つて松平和泉守を始め一萬石以上の面々、同じく總領竝に無官の高家まて二三人・四五人づつ出座御禮。過ぎて金地院・知足院御目見、終つて間の御襖障子明けて下段に立御、御次の間に伺候の面々竝居、一同に御目見終つて則ち入御。右の御禮の内御緣溜りに法印・法眼・醫師伺候す。同じく落緣に舞々猿樂居す。松平攝津守・松平陸奥守・松平大膳大夫・松平刑部大輔・松平播磨守・松平隱岐守・大久保加賀守等は病氣或は差合にて登城なし。

一、五月五日辰の下刻御黑書院へ出御、御染帷子・御長袴『兩典厩御對顏、次に御兩典家老衆四人一同に出座。御目見終つて御白書院へ出御。紀伊黃門・尾張次將御對顏但水戸彥殿病氣。故登城なし　次に井伊掃部頭・松平右京大夫・松平左兵衞督一人づつ出座御禮。次に御禮山王別當最敎院、卷數同神主日吉大膳。右の通り差上ぐ。一人づつ御禮。過ぎて大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆・松平美作守・御詰衆・奏者御番衆・御留守居衆竝居、御通りに一同に御目見。大廣間へ出御、中段に御著座。松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平陸奥守・松平淡路守・松平刑部大輔・松平伯耆守・丹羽左京大夫・織田山城守・松平修理大夫・松平彈正大弼・本多内記・森美作守・松平中務大輔・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大夫・松平筑前守・蜂須賀千松・酒井左衞門尉・松平隱岐守・戸田采女正・内藤帶刀、右一人づつ御目見　終つて松平和泉守を始め、一萬石以上の面々、同じく總領竝に無官の高家まて二人・三人・四五人づつ出座御禮。過ぎて間の襖障子明け下段に立御、御次の間伺候の面々竝居、一同に御

目見、終つて入御。入御の節大廊下溜にて伏見勘七、同時御白書院御疊縁に井門次郎右衛門、右の後座御疊縁に御扶持人・諸職人竝居、一同に御目見。即刻入御なり。大廣間御禮の内西の御縁通りに法印・法眼の醫師伺候す、竝に落縁に猿樂居す。松平攝津守・松平伊豫守・松平播磨守は煩にて登城なし。

端午の御内書相渡さる

一、六月十三日に御城に於て端午の御内書を相渡さるゝ面々。御兩典は御右筆部屋東の間にて相渡さる、使者に時服三つ下さる。尾張殿・紀伊殿・水戸殿・松平讃岐守へは躑躅の間にて相渡さる、使者に時服三つ下さる。松平越後守・松平加賀守・松平越前守・松平新太郎・松平大隅守・松平相模守・松平左京大夫・松平安藝守・佐竹修理大夫・松平陸奥守・松平大膳大夫・細川越中守・森内記・松平右衛門佐・松平丹後守・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・藤堂和泉守・松平土佐守・有馬中務大輔・蜂須賀千松・上杉喜平次・南部大膳大夫・西本願寺、右の面々柳の間に於て相渡さる、使者時服二づつ下さる。右の外大名衆へは酒井雅樂頭宅へ家臣を招き相渡す。

御嘉定の儀

一、六月十六日御嘉定に付いて、巳の後刻に大廣間へ出御、中段に御著座御長袴。著座の面々、松平越後守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平陸奥守・松平薩摩守・丹羽左京大夫・松平伯耆守・松平彈正大弼、右一人づつ御目見。順々御向の御縁通りに著座。御菓子三種三方に載せて御前に備ふ。著座の面々へも御菓子を下さる。御前に召上げらるゝ時に各〻頂戴終つて退去。次に出座の次第。井伊掃部頭・酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・品川式部大輔・松平刑部大輔・松平下總守・戸田土佐守・阿部豐後守・稻葉美濃守・松平美作守・畠山下總守・織田主計頭・上杉伊勢守・由良信濃守・森美作守・松平中務大輔・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平筑前守・内藤帶刀・久世大和守・土屋但馬、守右一人づつ出座、御菓子頂戴。中大名松平和泉守を始め是より二人づつ。無官の高家・御詰衆・同じく總領・御留守居衆・大目附衆・町奉行衆。御黑書院廊下に於て御目見の衆、大御番頭・御書院番頭・御小性組頭・御旗奉行・百人組頭・御槍奉行・御持弓・御持筒頭・三千石以上の寄合・大御番頭の總領・御近習衆・御小性衆・御納戸衆・中奥衆・法印・法眼・御目附衆・御使番伊奈半十郎・御書院番組頭・御小性組與頭・總御弓鐵炮の頭田付四郎兵衛・井上左太夫・西の丸御留守居衆・御納戸番頭・御腰物奉

行・御歩行頭・小十人組頭・二の丸御留守居・御船手頭・清水奉行・三崎奉行・走水奉行・新御番組頭（當番計り）・御裏御門番頭（當番計り）・御膳奉行（當番計り）・寄合衆・御右筆衆（當番計り）・御馬預り方・御鷹師頭・道奉行・御書物奉行・御廣敷番頭・御小性組番衆（當番計り）・御書院番衆（當番計り）・新番衆（當番）・大御番衆（但し總組より組頭ともに一組分出る）・小普請奉行・御金奉行・御腰物奉行（當番）・御納戸組頭（當番）・御弓矢槍奉行・玉藥奉行・御具足奉行・御幕奉行・右奉行・川船奉行・材木奉行・總御納戸衆（當番）・御細工頭・殺生方頭・御賄方頭・御臺所頭・總御勘定方・御代官方・小十人組衆（當番）・無官の醫師（當番）・珍阿彌・圓阿彌・細阿彌・丹阿彌、金阿彌・右頂戴終つて入御。膳總高千八百九十八膳、内六百二十膳頂戴なり。松平伊豫守・松平淡路守・松平播磨守・牧野佐渡守・織田山城守・酒井左衛門尉・松平大藏大輔・織田内記・蜂須賀千松等、煩に依りて今日登城なし。

七夕の御祝儀

一、七月六日に七夕の御祝儀として鯖代を進上。

金一枚尾張殿、同紀伊殿、同水戸殿、同松平越後守、金一枚、鯖二百刺松平加賀守、金一枚松平越前守、同松平相模守、同松平新太郎、同松平讃岐守、同松平安藝守、同松平出羽守、同松平大和守、銀三枚松平但馬守、銀三枚松平中務大輔、同松平兵部大輔、同五枚松平淡路守、同三枚松平飛驒守、時服三藤堂和泉守、御守一荷二種日光御門跡、次に井伊掃部頭・松平左兵衛督・松平美作守一人づつ出座御禮。大廣間へ出御の刻大廊下に於て、高家衆・御詰衆・奏者番衆・寺社奉行・御留守居衆・大御目附・町奉行・諸番頭、此外此所にて御禮申上ぐる面々並居、御通りがけに御目見。大廣間へ出御、中段に著御。次に井伊掃部頭・松平左兵衛督・松平美作守一人づつ出座御禮。大廣間へ出御の刻大廊下に於て、高家衆・御詰衆・奏者番衆・寺社奉行・御留守居衆・大御目附・町奉行・諸番頭、此外此所にて御禮申上ぐる面々並居、御通りがけに御目見。大廣間へ出御、中段に著御。松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平陸奥守・松平薩摩守・松平隱岐守・松平刑部大輔・松平播磨守・松平伯耆守・丹羽左京大夫・織田山城守・松平彈正大弼・松平下總守・森美作守・織田内記・松平中務大輔・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・松平筑前守・蜂須賀千松・酒井左衛門尉・内藤帶刀右一人づつ出座御禮。終つて松平遠江守・松平和泉守を始めとして、一萬石以上の面々同じく總領並に無官の高家まで、二三人・四五人づつ出座御禮。次に知足院出座、終つ

て間の御襖障子明けて下段に立御。御次の間伺候の面々竝居、一同に御目見畢つて入御。御禮の内に西の御縁通りに法印・法眼の醫師伺候なり。落縁に鏑々猟樂居す。松平攝津守・松平伊豫守煩にて登城なし。

一、八月朔日辰の下刻御黒書院へ出御、上段に御著座。白御帷子・御長袴、左馬頭殿・右馬頭殿出座御禮、御太刀目錄酒井河内守披露す。御白書院へ出御、紀伊中納言殿・水戸宰相殿・尾張中將殿、右一人づつ出座御禮、御太刀目錄をば酒井河内守披露。尾張黄門在國に付いて竹腰山城守を以つて、御太刀目錄を進上。酒井河内守披露す。使者御目見。次に井伊掃部頭御太刀目錄を持參御禮、松平左兵衞督出座御禮、御太刀目錄酒井河内守披露。大廣間へ出御の刻大廊下に於て、老中松平美作守・高家衆・御詰衆・奏者御番衆・右の嫡子・御留守居衆・大目附・諸番頭等、外に此所にて御禮申上ぐる面々、三千石以上御太刀目錄を前に置いて、一同に御通りがけに御目見なり。終つて大廣間へ出御、中段に著御。松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平陸奥守・松平薩摩守・松平伯耆守・松平淡路守・織田山城守・松平彈正大弼・森美作守・松平中務大輔・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・蜂須賀千松・酒井左衞門尉・内前帶刀、右一人づつ出座、御太刀目錄持參御禮。終つて次に松平和泉守を始め一萬石以上の面々、同じく總領・無官の高家まで二三人づつ御太刀目錄持參して出座御禮。金地院一束一本、知足院一束一卷を捧上して御禮。過ぎて間の御襖障子明けて立御。御次の間伺候の面々三千石以上は、御太刀目錄前に置いて竝居御目見。終つて入御の刻大廊下に於て、御近習方三千石以上は、御太刀目錄前に置き竝居して御目見。同時御白書院落縁に銀座・朱座・大黒長左衞門・同十郎兵衞・奈良總代等進物前に置いて、御小性組番所前に本阿彌家・御扶持人の諸職人等竝居て、御目見申上ぐる。則ち入御。松平攝津守・松平伊豫守・松平播磨守・織田内記・松平刑部大輔・丹羽左京大夫・松平下總守・松平筑前守等、或は煩或は差合にて登城なし。大廣間にて在國・在所の大名、或は在江戸の大名、幼少・病人等名代を以て御太刀目錄を進上の面々、松平越後守・松平加賀守・松平新太郎・松平大隅守・松平相模守・松平讃岐守・松平左京大夫・松平安藝守・松平大膳大夫・松平出雲守・松平攝津守・細川越中守・松

重陽の儀

平伊豫守・森内記・松平但馬守・松平播磨守・松平修理大夫・保科筑前守・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・藤堂和泉守・松平土佐守・松平大和守・佐竹右京大夫・本多内記・板倉内膳正・永井伊賀守・上杉喜平次・織田内記・松平兵部大輔・松平飛驒守・松平隱岐守・酒井修理大夫・小笠原遠江守・戸田采女正・青山因幡守・松平遠江守、右の外名代の使者八十三人、御太刀目錄持參、二人宛出座、老中列座なり。尤奏者番衆請取納むる。

一、九月九日巳の後刻に御黑書院へ出御、上段に御著座。染御小袖・御長袴。甲府館林兩宰相殿御對顏。次に兩殿の家臣一同に出座御禮、終つて御白書院へ出御。紀伊殿・尾張殿・水戸殿へ御對顏。次に井伊掃部頭・保科筑前守・松平左兵衞督等一人づつ出座御目見。次に山王別當最勝院、同じく神主日吉大膳御禮、御札・卷數を捧げて出座御目見。大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆・御詰衆・奏者御番衆・寺社奉行・同總領竝に諸御番頭・同じく組頭・諸奉行・諸物頭役人等竝居、御通りがけに一同に御目見。終つて大廣間へ出御、御中段に御著座。松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平攝津守・松平陸奥守・松平薩摩守・細川越中守・松平伊豫守・松平伯耆守・松平淡路守・松平刑部大輔・松平播磨守・丹羽左京大夫・織田山城守・松平彈正大弼・松平下總守・森美作守・織田内記・松平中務大輔・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・松平筑前守・蜂須賀千松・酒井左衞門尉・内藤帶刀、右一人づつ出座御目見。終つて松平遠江守を始め、一萬石以上の面々、同じく總領竝に無官の高家まで二三人・四五人づつ出座御目見。金地院・知足出座御禮、過ぎて下段間の御襖障子明けて、下段に立御。御次に伺候の面々竝居て、一同に御目見終つて入御。大廣間御禮の内、西の御縁に法眼以上の醫師伺候す。落縁には舞々猿樂居す。入御の刻山吹の間に於て、伏見勘七郎御禮申上ぐる。

御玄猪の次第

一、十月三日の晩御玄猪の次第。酉の後刻御白書院へ出御、上段に御著座。御熨斗目・御長袴。御祝の餅例の如く御前に備ふ（御小性。衆役す）其後薄盤の餅出づる（御小性。衆役す）右は御右の方に置く。出御の次第　井伊掃部頭・酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・吉良上野介・品川式部大輔・保科筑前守・松平刑部大輔・松平播磨守・丹羽左京大夫・松平下總守・戸田土佐守・阿部豐後守・稻葉美濃守・松平美作守・牧野佐渡守・畠山下總守・上杉伊勢守・由

良信濃守・織田主計頭・毛利甲斐守・立花左近將監・有馬中務大輔・内藤帶刀・久世大和守・土屋但馬守・酒井左衞門尉・同河内守等なり。中大名は松平遠江守を始め、無官の高家衆・御詰衆・同總領・御留守居衆・大御目附衆・町奉行衆。御黑書院廊下にて御目見の面々、駿府町奉行・土井能登守・堀田備中守・板倉筑後守・松平民部少輔・松平因幡守・大御番頭・御書院番頭・御小性組番頭・御旗奉行・御留守居番衆・百人組の頭・御槍奉行・御持弓御持筒頭・三千石以上の寄合・新御番頭・大御番頭の總領・御近習衆・御小性衆・御小納戸衆・中奥衆・法印・法眼・伊奈半小郎・御目附衆・御使番衆・御書院組與頭・御小性組與頭・總御弓鐵炮頭田付四郎兵衞・西丸御留守居・御步行頭・小十人組頭・二の丸御留守居・御納戸頭・御腰物奉行頭・御船手の頭・三崎奉行・走水奉行・佐渡奉行、右一人づつ出座、御手自ら御餅を下さる。出人三百廿二人なり。過ぎて右の外奉行役人・諸物頭・諸御番衆・御同朋まで二人・三人づつ出座、御餅頂戴、終つて戌の下刻入御なり。

玉叢露　卷第四十一　終

玉露叢　卷第四十二

年中式時之次第 下（寛文十・十一兩年を以て記レ之）

元旦の儀式

一、寛文十一年辛亥年正月朔日辰の後刻、御黑書院へ出御。上段に御著座、緋の御裝束。御太刀本多土佐守、御刀石川美作守役す。甲府殿・館林殿御勝手方より出座御禮。御太刀目錄酒井河内守披露す。御座の左の方に著座但し下段。御盃頂戴、吳服拜領、御作法例の如し。御白書院へ出御、上段に著御。紀伊中納言殿御禮太刀目錄、酒井河内守披露。則ち御座の御左の方下段に著座。次に松平越前守御太刀目錄持參御禮、紀伊殿の次に著座。御盃頂戴、吳服拜領、御作法例年の如し。次に尾張殿名代成瀨隼人正・水戸殿名代中山市正・紀伊殿名代北條惣四郎を以て、御太刀目錄を進上、是れ在國に付いてなり。尤も使者御目見なり。數の土器出づ、御酌御加。

右數の土器にて御前へ召上げられ。其御盃御銚子に載せ御酌控へある時に、松平下野守・松平攝津守・井伊掃部頭・酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・品川式部大輔・保科筑前守・松平伯耆守・松平淡路守・松平刑部大輔・松平播磨守・松平下總守・稻葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正・松平美作守・酒井河内守・牧野佐渡守等、一人づつ御太刀目錄持參して御禮、御盃頂戴、吳服拜領。次に松平兵部大輔・松平大藏大夫・酒井右衞門尉一人づつ御太刀目錄持參して御盃頂戴、吳服拜領なり。

大廣間へ出御の刻、大廊下に於て御詰衆・奏者御番衆・寺社奉行・御留守居衆・大御目附衆・町奉行・諸番頭・諸奉行、外に例に依つて此處にて御禮申上ぐる面々、諸大夫並に三千石以上は御太刀目錄前に置いて一同に御目見、大廣間へ出御、上段に著御。此時間の御襖障子明け下段に立御、御次の間に伺候の面々、法印・法眼・三千石以上の輩は御太刀目錄前に置く。布衣並に寄合又は役人・御書院番・大御番・小十人組何れも並居、一同に御目見。終つて則ち上段に御著座、御引渡・御銚子・御加御前へ召上げられ、松平遠江守・松平和泉守を初め、諸大夫の面々、御流頂戴、吳服拜領なり。御作法例の如し。

次に兩殿の陪臣・三家の家司罷出、御流頂戴。吳服拜領、畢つて銚子入る。無官の高家吳服頂戴、終つて入御なり。入御の刻大廊下に於て、林春常・林春東・人見友元・坂井伯元・久志本式部・同内藏・同左京御目見。同じ時櫻の間に御太刀目錄前に置いて、伏見勘七郎御目見。同じ時御白書院御次の間にて、御小性組番衆・御具足奉行・御弓矢槍奉行・道奉行・御腰物奉行・御勘定方一同に御目見。同じ時御黑書院御勝手の方に、新御番衆・御膳奉行・御右筆並居、一同に御目見終つて入御。

大廣間御流の内御白書院に於て、吉良上野介・戸田土佐守・織田主計頭・富山下總守・上杉伊勢守・由良信濃守等吳服拜領、是は御役儀ありて、御前にて拜領なきに付いてなり。本多土佐守・石川美作守御奥に於て吳服拜領、是又役儀あるに付いてなり。

入御以後五銚子にて布衣の面々御流頂戴、其後七銚子に成りて、諸御番衆御流を下さる。同朋まで頂戴。終つて御銚子入り、二銚子殘りて板縁に下り、幸若・觀世一銚子宛御流頂戴、御銚子入る。

正月二日の儀式

大廣間にて在國・在處の大名、且又在江戸の幼少又は長病の面々名代を以て、御太刀目錄を進上、所謂松平越後守・松平加賀守・松平相模守・松平讃岐守等なり。右の外名代の使者七十三人、御太刀目錄持參、二人宛出づる。老中列座、奏者御番衆請取納る。今日吳服頂戴、都合二百九十二人なり。

一、二日辰の後刻、御白書院へ出御、上段に著座、緋の御裝束。御太刀本多土佐守、御刀松平内記。尾張中將殿御禮、御太刀目錄。酒井河内守披露、則ち御座の御左の方に下段に著座。御盃御引渡し御捨土器、中將殿へも引渡し出づる。御銚子・御加御前へ召上げられ、中將殿へ下さる。吳服頂戴御作法例の如くなり。御銚子入る。次に松平左兵衞督御太刀目錄持參御禮、退座の時吳服拜領。

大廣間へ出御、上段に御著座。佐竹修理大夫・松平陸奥守・松平薩摩守・細川越中守・松平伊豫守・松平右衞門佐・丹羽左京大夫・織田山城守・松平彈正大弼・松平土佐守・松平阿波守等、一人づつ太刀目錄を持參して御禮、則ち下段に順々著座。但し御左の方に著座。御前へ引渡し、御捨土器著座の面々へも引渡し出づる。御酌御加、御前へ召上げられ、順々に御盃を頂戴、吳服拜領終つて御銚子入る。各〻退去なり。

森美作守・織田内記・毛利甲斐守・立花左近將監・松平信濃守・有馬中務大輔・松平筑前守等、一人づつ御太刀目錄を持參して御禮、御盃頂戴、吳服拜領す。右の太刀折紙は奏者御番衆之れを引く。

右終つて間の御襖障子明け、下段に立御。御次の間に諸大夫の面々・無官の高家、御太刀目錄前に置いて御禮、後座に昨元日登城なき諸御番の面々竝居、一同に御目見。則ち御障子閉てゝ上段に御著座。南部大膳大夫・伊達兵部大夫・松平備後守を始め、諸大夫の面々二人づつ出座、御流頂戴、吳服拜領。終つて御銚子入る。無官の高家畠山次郎四郎・蒔田左兵衞・今川大學、右の三人出座、吳服拜領、終つて入御なり。

入御の刻、大廊下に於て無官の醫師・連歌師・岩船撿校・吉川撿校・吉川惟足等、進物前に置いて御目見申上ぐる。同じ時、白書院御次の間御緣通りにて、御代官方鈴木修理・木原内匠、御被官御大工・狩野圖書・同主殿、同所落緣に御菓子屋・御酒屋、此外御扶持人の諸職人等、進物の品々前に置いて一同に御目見。即ち入御。

入御以後大廣間に於て元日の如く、七銚子にて諸御番の面々御流を下さる、同じ時大廣間に於て在國・在處の大名、又在江戸幼少竝に長病の面々、名代を以て御太刀目錄を進上。松平新太郎・松平大隅守・松平安藝守・松平大膳大夫等なり。右の外名代の使者廿二人御太刀目錄を持參、二人づつ出づる。老中列座、奏者御番衆請取り納る。例年の通り。御譜代大名大紋にて各々登城なり。今日呉服頂戴、都合四十七人なり。

正月三日の儀式

一、三日辰の刻、御白書院へ出御、上段に御著座、御熨斗目・御長袴。松平岩松・織田右近御太刀目錄持參御禮、終つて大廊下板戸の際に立ち、御櫻の間より大廊下にて井伊吉十郎を始め無官の面々、御太刀目錄前に置き、茲に左馬頭殿・右馬頭殿家老・城代の子供罷出づる。各々竝居一同に御禮、終つて右の後座に山本加兵衛男山本武兵衛・榊原熊之助家來伊藤忠兵衛・井伊兵部少輔家來松下源左衛門・奥平大膳亮家來奥平圖書・生田内匠等、御太刀目錄前に置いて一同に御目見。奏者御番披露。次に御白書院間の御襖障子明け、下段に立御。御小性組御番所の前御縁通りに、當江戸の町年寄三人、同所御番所の内、南の御縁通りに、江戸の名主數輩居す。前一通りに各々進物を前に置く。同所落縁に上京・下京・伏見・淀・過書・大坂・堺・奈良の町年寄總代、銀座・朱座等其外此所にて御目見の町人、進物前に置いて右一同に御目見。奏者御番衆披露なり。卽ち入御畢る。

兵法講書初

入御の刻、同所北の御縁通りに岡田豐前守、同時御連歌の間、後に鳥目百匹を前に置き岩松萬次郎、右竝居御通りがけに御目見。御座の間に於て柳生飛驒守・同大膳を召され、御兵法初めあり。御手自御熨斗鮑を下され、退出の後兩輩へ時服を給ふ。同じ時御馬の召初あり。終りて諏訪部彦兵衛・西川清左衛門に時服を給ふ。

御謠初

今晩御謠初に付いて、諸大名より例年の如く、御盃臺を使者を以て進上、紀伊殿竝に譜代大名此外出仕の面々、暮に及び登城なり。酒の刻大廣間へ出御、中段に御著座、御熨斗目御長袴。紀伊殿出座御禮、酒井河内守披露。卽ち下段御向に著座、此外御次の間の著座衆出づる。

南方　松平遠江守・松平日向守・松平丹波守

北方　松平和泉守・小笠原内匠頭・松平大膳亮（但し猿樂は出御以前より板縁に居す）

初獻　御盃御引渡・御捨土器。紀伊殿へも引渡出る（三方）捨土器出る。御次の間著座衆へも引渡出る（足打）。御酌御加。御前へ召上られ御加へ有りて、紀伊殿出座頂戴、御作法例の如し。御酌代る。御酌御加。紀伊殿前にある盃を御酌取りて手に載せ、御次の間の著座、遠江守より千鳥がけに通し銚子入る。

二獻　御盃・御吸物出、御引渡しに代る。紀伊殿又御次の間著座へも同斷。御酌御加。御前に召上られ御加へ有りて、紀伊殿頂戴。歸座の時御酌代る。御酌御加。紀伊殿前の盃御酌手に載せ、御次の間著座。和泉守より、千鳥がけに通し御銚子入る。御吸物を引き、御捨土器は其儘置く。紀伊殿吸物・捨土器も引く。御次の間著座、此時膳を持つて退座なり。

三獻　蕗の薹（御右の方に置く）　星の物（御左の方に置く）　御酌御加。御前へ召上らるゝ時に酒井河内守出座、謠ふべき旨を傳ふ。觀世太夫四海波を謠ふ。御加へ有りて其御盃を臺に載せ、最前の席に控へある時に、紀伊殿出座頂戴、星の物の御肴を紀伊殿へ遣さる。

中段に參上頂戴、加へ有りて御次の間へ盃を持退かる時に、酒井河内守取つて臺にのせ御酌に渡す。御前に召上らる時に中座有りて、御禮復座なり。

老松の御拍子始る御前に召上られ御加へ有つて、其御盃を御銚子に載せ、下段東の御敷居際に御酌控ある時、井伊掃部頭に下さるゝ旨、酒井河内守傳ふ。掃部頭出座頂戴、盃は敷居の上に置き御酌代る。御酌御加。掃部頭盃を御酌取つて、御通りに成る。侍從四品竝に御譜代大名御詰衆一人宛出座頂戴（此間に尾張殿・紀伊殿、水戸殿より進上の臺出る。左馬殿・右馬殿より進上の臺は出御前より御座の御左の方に置く）

四獻　五獻　六獻　七獻　八獻　御酌・御加。右馬頭殿より進上の臺出て召上られ、松平美作守に下さる。御酌代る。御酌・御加。松平美作守盃を御酌取りて、最前の通りに代る。

高砂の御拍子過ぎて御通り、二銚子一同に引入れ、酒井河内守御縁通りに出座、觀世太夫七太夫に例の如く吳服一重づつ下さる。竝に太夫に鳥目千疋宛、總猿樂に同じく二百疋宛折紙を下さる。板縁に於て奏者御番衆渡す。

九獻　松竹の臺　御酌御加。御前へ召上げられ、御加の時兩人の太夫共拜領の小袖を著し、弓矢の立合を舞ふ。御作法例の如し。

御拍子

老松　觀世　助九郎　新十郎　惣右衞門　市右衞門　東　北　七太夫　九郎兵衞　新九郎　八郎右衞門

高砂　觀世　兵右衞門　小兵衞　孫右衞門　長藏　弓矢立合　觀世　七太夫　庄九郎　新右衞門　大介

一、六日に出家衆御禮に付いて、巳の後刻御白書院へ出御、上段に著座、緋の御裝束。

三束二卷　增上寺方丈獨禮　一束一卷　新田大光院同　同　小石川傳通院同

河内守披露。宗源院殿御靈屋別當最勝院・台德院殿御靈屋別當惠眼院・本誓寺・天德寺・大養寺・淺草誓願寺・增上寺の役者・御佛殿役者・常光院・壽光院等、各〻一束一〔卷カ〕束を持參、兩度に御目見御禮。一束一本　品川東海寺。

大廣間へ出御、上段に御著座、下段に出御。以前より例年獨禮の諸出家竝居、一通りに進物を置いて、後の板緣には伊勢內外宮の社人・尾州・津島・八幡・山崎・鹿島・香取・芝の神明・神田明神・鎌倉鶴ヶ岡八幡の神主等の外、神主・山伏等御禮竝に熨斗鮑・鳥目前に置いて一同御目見過ぎて、寺社退去の由、御納戶構へ入御ありて、重ねて下段の間の御襖障子明けて下段に立御。御次の間に諸出家竝に板緣にも出家・社人・山伏竝居、進物前に置いて一同に御目見、奏者御番衆披露、卽ち入御。

入御の刻御白書院下段に立御。御次の間御疊緣に千人頭六人。

御祓・熨斗鮑一折　伊勢春木太夫名代　同　斷　伊勢山本太夫

一束一本　德川の萬德寺　金一兩　德川の庄田隼人

扇子箱　鞍工伊勢因幡　扇子箱　鞍工伊勢傳左衞門

七種の祝儀

右竝居、進物を前に置いて一同に御目見。同時御連歌の間、後に紫革十枚前に置いて、御通りがけに御目見。

一、七日に七種の御祝儀として、巳の後刻御黑書院へ出御、上段に御著座。御熨斗目御長袴。御兩典一人づつ出座御禮。次に紀伊中納言殿・尾張中將殿一人づつ出座御禮。右酒井河内守披露。次に井伊掃部頭・保科筑前守・松平下總守・松平美作守、右一人宛出座御目見。

御具足の祝儀

一、十一日に御具足の御祝儀に付いて、御譜代大名其外出仕の面々、早朝より登城なり。巳の下刻御黒書院へ出御、上段に御著座、御熨斗目御半袴。御祝の餅御前に備ふ。井伊掃部頭御相伴、御盃を頂戴。御銚子竝に御膳等引入る。此座の後松平下總守・松平美作守・牧野佐渡守・酒井左衞門尉等一人づつ出座御目見、次に松平遠江守・松平和泉守を始め、御譜代大名五六人・七八人づつ出座御目見、終つて入御の刻、山吹の間に於て高家衆・御詰衆・奏者御番衆・御留守居衆・大目附衆・諸番頭・諸物頭・諸奉行・諸役人竝居、一同に御目見、即ち入御なり。右の面々、山吹の間・雁の間・菊の間・紅葉の間まで竝居、御祝の餅・御酒・熨斗鮑等下さる。終つて各〻退去。今日御連歌御會に付いて、御連歌の間北の御縁通りへ午の刻出御、即刻入御。

二月朔日日光久能御鏡頂戴の儀

一、二月朔日に日光・久能の御鏡御頂戴に付いて、辰の後刻御白書院へ出御、上段に御著座御裝束。

日光御札御鏡　吉良上野介　畠山下總守　役す。

久能卷數御鏡　同人　同人　役す。

右御頂戴終りて上段の御座に置く。日光御門跡・山門總代、年頭の御禮あり。吉良上野介披露なり。凌雲院・修學院・知樂院・檀那院・松高院・興光寺等の僧正。各〻一束一卷づつ進上有りて御禮なり。右の外今日寺院數輩御禮あり。

上巳の儀式

一、三月三日巳の後刻、御黒書院へ出御、御熨斗目御長袴。御兩典出座御禮、酒井河内守披露。同じく家老二人づつ一同に出座御禮、終つて御白書院へ出御。水戸殿・尾張中將殿御對顔、河内守披露。次に井伊掃部頭御禮、次に松平左兵衞督御禮、酒井河内守披露、終つて大廣間へ出御の節、大廊下に於て高家衆・御詰衆・松平美作守・奏者御番衆・御留守居衆・大目附衆・町奉行・諸御番頭・諸奉行・諸物頭役人等竝居、一同に御目見、即ち大廣間へ出御、御中段に著御。松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・松平攝津守・松平陸奥守・松平薩摩守・細川越中守・松平伊豫守・松平伯耆守・松平淡路守・松平刑部大輔・松平播磨守・織田山城守・松平彈正大弼・松平土佐守・松平阿波守・松平下總守・森美作守・織田内記・毛利甲斐守・立花左近將監・松平兵部少輔・松平信濃守・有馬中務大輔・松平筑前守・酒井左衞門尉、右一人づつ出座、御禮過ぎて松平遠江守・松平和泉守を始め一萬石以上の面々、同じく總領竝に無官の高家まで、二人・三人・五

人づつ御目見。次に知足院出座御禮過ぎて、間の御襖障子明け下段に立御。御次の間伺候の面々並居、一同に御目見卽ち入御。太の内西の御縁に法印・法眼の醫師並居、同じき落縁に舞々・猿樂居す。保科筑前守・丹羽左京大夫・松平大藏大輔煩に付き今日登城なし。

端午の儀式

一、五月五日辰の下刻、御黑書院へ出御、上段に御著座、染御帷子御長袴。御兩典御對顏終つて、同じき陪臣共一同に御目見過ぎて御白書院へ出御。尾張殿・水戸殿・尾張中將殿御對顏、終つて井伊掃部頭・松平左兵衞督出座御禮過ぎて、御札山王別當觀理院・卷數山王神主日吉大膳、右出座御目見。奏者御番衆披露。大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆・御詰衆・大目附衆・町奉行・諸番頭・諸物頭・奉行役人等並居、一同に御目見、大廣間中段に著御。松平越後守・同加賀守・同新太郎・同相模守・同左京大夫・同安藝守・同攝津守・同出雲守・同陸奥守・同薩摩守・同大膳大夫・森内記・松平伊豫守・同刑部大輔・同播磨守・同但馬守・伊達遠江守・松平出羽守・佐竹右京大夫・松平阿波守・織田内記・松平飛驒守・毛利甲斐守・松平兵部大輔・同信濃守・同筑前守・小笠原遠江守、

六月十六日御嘉祥の儀

右一人づつ出座御禮、終つて間の御襖障子明け下段に立御、御次の間一萬石以上の面々並に伺候の輩、一同に御目見、卽ち入御。

右御禮の内、西の御縁に法眼以上の醫師伺候なり。板縁に猿樂居す。但し一萬石以上無官の高家まで例に依つて出座御禮なれども、少々御眼病に付いて今日は各〻一同に御目見。入御の刻大廊下溜りにて、伏見勘七郎御目見。同時御白書院御疊縁に井關次郎右衞門鞍打・大津町總代是は板縁なり兩人進上物前に置いて御禮。御小性組御番所の疊縁に御扶持人の諸職人・繪師並居、一同に御禮。保科筑前守・丹羽左京大夫・松平下總守・酒井左衞門尉・有馬中務大輔等、煩に付き登城なし。

一、六月十六日に御嘉祥に付いて、辰の下刻大廣間へ出御、御長袴、中段に御著座。

著座の面々

松平越後守・同加賀守・同相模守・同左京大夫・同安藝守・同陸奥守・同大膳大夫・森内記・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・同修理大夫・藤堂和泉守・佐竹右京大夫・松平阿波守、右一人づつ出座御目見。順々に御向の板縁に著座、御菓子三方に載せ御前に備

ふ。著座の面々へも御次の間に雙べ置き、御菓子を下さる。御前に召上らる時、各〻頂戴、終つて著座の面々、下座より膳を持ちて退去。

出座之次第

酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・吉良上野介・松平刑部大輔・同播磨守・同右京大夫・同大和守・戸田土佐守・稲葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正・松平美作守・酒井河内守・織田主計頭・由良信濃守・毛利甲斐守・松平兵部大夫・同信濃守・有馬中務大輔・松平筑前守・小笠原遠江守、右一人づつ出座、御菓子頂戴なり。中大名は松平遠江守・同和泉守を始め二人づつ、無官の高家御詰衆、同じく總領・御留守居・大目附衆・町奉行。

御黒書院廊下にて御目見の衆

駿河町奉行・大御番頭・御書院番頭・御小性組番頭・御旗奉行・百人組の頭・御槍奉行・御持弓・同鐵炮頭三千石餘の寄合・大御番頭の總領・御近習衆・御小性衆・御小納戸衆・中奥衆・法印・法眼・御目附・御使者番伊奈半四郎・御書院番組頭・御小性組與頭・總御弓鐵炮頭田村井上・西の丸御留守居・御歩行頭・小十人組番頭・二の丸御留守居・御納戸番頭・御腰物奉行等諸役人出づる。平番は當番ばかり、大御番衆は總組より組頭共に一組分出づる。珍阿彌・福阿彌・千阿彌・丹阿彌・金阿彌等頂戴、終つて入御。膳總高千八百四十六膳の内、六百三十二膳頂戴なり。

松平新太郎・保科筑前守・松平但馬守・牧野佐渡守・畠山下總守・上杉伊勢守・松平飛驒守・同大藏大輔・同隱岐守・酒井左衞門尉等、煩にて登城なし。

一、七月六日、七夕の御祝儀として御一門方より、使者を以て鯛代を進上、員數去年の通り故、之を略す。

一、同七日辰の下刻、御黒書院へ出御、白御帷子・御長袴、上段に御著座。御兩殿へ御對顔、次に同じき陪臣一同に御禮、終つて御白書院へ出御、上段に著御。尾張殿・水戸殿・尾張中將殿・德川采女殿、右御對顔。次に保科筑前守・松平右京大夫・同美作守・同左兵衞督等一人づつ御目見、終つて大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆・御詰衆・同じく總領・奏者番衆・寺社奉行・御留守居衆・大目附、此外諸番頭・諸奉行・諸役人

七夕の祝儀

例の如く、此處にて御禮の面々竝居、御通り掛に一同に御目見、卽ち大廣間へ出御中段に御著座。

松平越後守・同加賀守・松平相模守・同左京大夫・同安藝守・同攝津守・同大膳大夫・森内記・松平刑部大輔・同播磨守・同但馬守・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・藤堂和泉守・松平大和守・佐竹右京大夫・松平阿波守・松平飛驒守・同兵部大輔・同信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・松平筑前守・小笠原遠江守・戸田采女正等一人づつ出座御目見、終つて、松平和泉守一萬石以上の面々、同じく總領・無官の高家まで二人・三四人づつ御禮、終つて間の御襖障子明けて下段に立御、御次の間に伺候の面々竝居。但し御禮の内に西の御縁通りに法印・法眼醫師伺候、落縁に舞々猿樂居す。松平新太郎・同修理大夫・酒井左衞門尉、煩にて登城なし。

一、八月一日辰の下刻、御黑書院へ出御、上段に御著座、白御帷子・御長袴。御兩典厩一人づつ御對顏、御太刀目錄は酒井河内守披露。終つて御白書院へ出御、上段に著御、尾張殿・水戸殿・尾張中將殿・德川采女殿順々御禮、御太刀目錄は酒井河内守披露紀伊殿在國故、名代水野對馬守を以て、御太刀目錄を進上、使者御目見。次に松平右京大夫御太刀目錄持參、出座御禮。次に松平左兵衞督右同斷に御禮　保科筑前守は忌中故登城なし。

大廣間へ出御の刻、大廊下に於いて老中松平美作守、高家衆・御詰衆・奏者御番衆、右の總領・御留守居衆大目附・町奉行・諸番頭・諸奉行・諸物頭後人等、此外例の如く此處にて御禮の面々三千石以上は、御太刀目錄前に置いて、御通り掛けに御目見なり。

大廣間へ出御、中段に御著座。松平越後守出座御禮、御太刀目錄。酒井河内守披露。終つて松平加賀守・同新太郎・同大隅守・同相模守・同左京大夫・同安藝守・同攝津守・同出雲守・同陸奥守・同大膳大夫・森内記・松平刑部大夫・同播磨守・同但馬守・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・同修理大夫・藤堂和泉守・松平大和守・佐竹右京大夫・松平阿波守・同飛驒守・同兵部大夫・同信濃守・有馬中務大輔・松平大藏大輔・同筑前守・酒井左衞門尉・松平隱岐守・小笠原遠江守等、一人、づつ御太刀目錄持參御禮。終つて松平和泉守を始め一萬石以上の面々・同じく總領・無官の高家まで二三人づつ御太刀目錄持

重陽の祝儀

參御禮、終つて知足院一束一本進上、出座御禮。終つて間の御襖障子明けて下段に立御、御次の間に伺候の面々一同に御目見、終つて入御。

入御の刻大廊下に於て若年寄衆、此外御近習の三千石以上の面々、太刀目錄前に置いて竝居、御通り掛けに一同に御目見。同時御白書院落縁に、朱座・銀座大黑長左衞門・同十郎兵衞・奈良町總代各〻進物前に置く。御小性組番所の前の御縁通りに、本阿彌家・繪師等竝に御扶持人の職人竝居、一同に御目見。卽ち入御。但し御禮の內西の御縁に法印・法眼の醫師伺候、同處落縁に舞々猿樂居す。大廣間にて在國・在江戸の大名幼少又は煩の面々、名代を以て御太刀目錄を進上。所謂松平越前守・佐竹修理大夫・松平下野守・同讃岐守、其外名代の使者百十八人、一人づつ太刀目錄持參罷出づる。老中列座。

一、九月九日巳の刻に、御黑書院へ出御、上段に御著座、染小袖・御長袴。甲府館林兩相公御對顏。同じく陪臣ども一同に御目見。終つて御白書院へ出御、上段に著御。尾張殿・水戶殿・尾張中將殿、德川采女殿、右御對顏終つて、松平右京大夫・松平左兵衞督一人づつ出座御禮。次に御札、山王別當觀理院。卷數、山王神主日吉大膳、右御目見、奏者番衆披露。終つて大廣間へ出御の刻、大廊下に於て高家衆・御詰衆・奏者番衆、右の面々の總領竝に例の通り此處にて御目見申上ぐる。諸番頭・諸奉行・諸物頭役人等、御通り掛けに一同に御目見、終つて大廣間へ出御、中段に御著御。

松平越後守・同加賀守・同新太郎・同大隅守・同相模守・同左京大夫・同安藝守・同攝津守・同出雲守・同陸奧守・同大膳大夫・森內記・松平刑部大輔・同播磨守・同但馬守・宗對馬守・伊達遠江守・松平出羽守・同修理大夫・藤堂和泉守・松平大和守・佐竹右京大夫・松平阿波守・本多內記・松平飛驒守・同兵部大夫・同信濃守・有馬中務大守・同隱岐守・小笠原遠江守。松平筑前守・酒井左衞門尉は煩なり。右一人づつ御禮。次に一萬石以上の面面總領・無官の高家等、二三人・四五人づつ出座御目見、終つて間の御襖障子明けて下段に立御、御次の間伺候の面々並居、一同に御目見、終つて卽ち入御。但し御禮の內西の御縁に法眼以上の醫師伺候す。落縁に舞々猿樂居す。

御玄猪の祝儀

一、十月九日に御玄猪の次第。酉の後刻御白書院へ出御、上段に御著座、御熨斗目

出座の次第

御長袴。御祝の餅御前に備ふ。御手付けさせらる。以後御左の方に置いて薄盤の餅を持出され、卽ち御右の方に置く。

出座の次第

井伊掃部頭・松平左京大夫・酒井雅樂頭・大澤兵部大輔・吉良上野介・松平刑部大夫・松平右京大夫・松平出羽守・藤堂和泉守・松平大和守・戸田土佐守・稻葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉內膳正・松平美作守・酒井河內守・畠山下總守・織田主計頭・上杉伊勢守・由良信濃守・有馬中務大輔・小笠原遠江守等なり。但し松平播磨守・酒井修理大夫・本多內記・酒井左衞門尉、或は煩又は差合なり。中大名・無官の高家・御詰衆・同じく總領・御留守居衆・仙石因幡守・大目附・衆町奉行衆なり。

御黑書院にて御目見の人々

御黑書院廊下にて御目見の面々。

駿府町奉行・大御番頭・御書院番頭・御小性組番頭・御旗奉行・百人組の頭・御槍奉行・御持筒の頭・三千石以上の寄合・大御番の總領・御近習衆・御小性衆・御小納戸衆・中奥衆・法印・法眼・御目附衆・御使役衆・御書院番與頭・御小性組與頭・總御弓鐵炮頭・西の丸御留守居・御步行頭・小十人組番頭・二の丸御留守居・御納戸頭・御腰物奉行・御船手の頭・清水奉行・三崎奉行・走水奉行・佐渡奉行等一人づつ出座、三百五十人御手自下さる。長臺の餅出る。

玄猪の賜物

是より二人づつ出る。新御番頭（當番計）・御裏門番頭・御廣敷番頭・御膳奉行（當番）・寄合衆・御書院御小性組番頭の嫡子・御右筆（當番）・御鷹師頭・御馬預り方・道奉行・御書物奉行。

是より三人づつ、御書院番衆（當番）・御小性組番衆（當番）・新御番衆（當番）・大御番衆（總組より組頭共に一組分出る）・小普請奉行・御金奉行、右の外諸役人諸奉行、御同朋まで御餅頂戴。終つて辰の下刻入御なり。

巢鷹・梅首雞・雲雀・鶴・雁拜領の次第

一、巢鷹二つ宛　紀伊大納言殿・尾張中納言殿・紀伊中納言殿・水戸宰相殿・甲府宰相殿・館林宰相殿・保科肥後守。

一、巢鷹一・巢兒鷹一つ宛　尾張中將殿・水戸少將殿・松平越後殿・松平加賀守・井伊掃頭守・酒井雅樂頭

一、梅首雞五つづつ下さる面々。紀伊大納言殿・尾張中納言殿・紀伊中納言殿・水戸宰相殿、右の上使書院番小性組兩御番頭の内なり。甲府殿・館林殿へは上使御守衆の時もあり。

尾張中將殿・水戸少將殿、上使右番頭衆。高田御方・本理院御方・千代姫御方・右御使奥方より、

松平越後守・松平加賀守・松平越前守・松平新太郎・松平大隅守・松平相模守・松平安藝守・松平陸奥守・竹佐修理大夫・藤堂和泉守・松平讃岐守・井伊掃部守・松平大膳大夫・細川越中守・松平右衞門佐・松平丹後守・森内記・松平對馬守・松平出羽守・松平淡路守・宗對馬守・丹羽左京大夫・松平但馬守・伊達遠江守・蜂須賀千松・松平大和守・毛利甲斐守・有馬中務大夫・立花左近將監・立花紅雪入道・毛利甲斐守・松平飛驒守、右の面々へ上使御使番なり。

一、父在國の節息へ下さるゝ面々。松平下野守・松平薩摩守・松平伊豫守・松平伯耆守・同彈正大弼・森美作守・松平土佐守・佐竹右京大夫・松平信濃守・松平萬千代・松平右京大夫、以上。

保科肥後守は上使御守衆なり。酒井雅樂頭・阿部豊後守は御前に於て拜領。

一、梅首鷄三つ宛下さる面々。

稲葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正・松平美作守。

一、雲雀五十宛遣さる方は　紀伊大納言殿・尾張中納言殿・紀伊中納言殿・水戸宰相殿、右の上使書院番小性組番頭。甲府殿・館林殿、右の上使御守衆の時もあり。

尾張中將殿・水戸少將殿、右の上使番頭衆。

高田御方・本理院御方・千代姫御方・右御使奥方より。

一、雲雀三十宛下さる面々　松平越後守・同加賀守・同越前守・同新太郎・同大隅守・同相模守・同安藝守・同陸奥守・佐竹修理大夫・藤堂大學頭・松平讃岐守・同左京大夫・同攝津守・同出雲守・井伊掃部守・松平大膳大夫・細川越中守・松平右衞門佐・同丹後守・森内記・松平對馬守・同但馬守・同淡路守・丹羽左京大夫・伊達遠江守・宗對馬守・松平刑部大輔・同播摩守・蜂須賀千松・有馬中務大輔・松平大和守・立花左近將監・松平中

務大輔・同飛驒守・同兵部大輔・毛利甲斐守・南部大膳大夫・甲府殿簾中・館林殿簾中・松平新太郎母儀内室・松平安藝守内室右の上使御使役。

一、父在國の節、息へ下さるゝ面々、松平下野守・同薩摩守・同伊豫守・同伯耆守・同信濃守・同彈正少弼・佐竹右京大夫・森美作守・松平土佐守・同萬千代。以上。保科肥後守上使御守衆。酒井雅樂頭・阿部豐後守は御前に於て拜領。

一、雲雀二十宛下さるゝ面々、尤御前に於てなり。

稲葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正・松平美作守。以上

一、雲雀二十宛下さるゝ面々、本多内記・小笠原遠江守・松平下總守・酒井左衛門尉・松平隱岐守・大久保加賀守・戸田采女正・松平若狹守・内藤帶刀・松平越中守・榊原能之助・本多下野守・奥平大膳亮・松平遠江守・松平和泉守・小笠原内匠頭・牧野飛驒守・松平丹波守・水野中務少輔・本多兵部少輔・松平日向守・青山因幡守・松平周防守・本多越前守・岡部内膳正・石川主殿頭・内藤豐前守・松平主殿頭・本多飛驒守・井伊兵部少輔・松平市正・諏訪因幡守・本多中務大輔・土岐山城守・植村右衞門佐・小笠原土佐守・稲垣信濃守・酒井大學頭・内藤右近大夫・鳥居兵部少輔・戸田伊賀守、右の外二萬石以下まで御鷹の雲雀拜領の面々は、松平佐渡守・三宅能登守。右何れも上使御使役。但し上使なき節は進物番。

一、鶴を遣さる衆、紀伊大納言殿・尾張中納言殿・紀伊中納言殿・水戸宰相殿、右の上使前の如し。

甲府殿・館林殿、右の上使前の如し。

尾張中將殿・水戸少將殿、上使番頭衆。

高田御方・本理院御方・千代姫御方、右御使奥方より、

松平越後守・同加賀守・同越前守・同新太郎・同大隅守・松平相模守・同讃岐守・同安藝守・同陸奥守・佐竹修理大夫・藤堂大學頭・松平大膳大夫・細川越中守・松平右衞門佐・松平丹波守・森内記・松平出羽守・同對馬守・蜂須賀千松、右上使は各〻御使役なり。保科肥後守、上使御守衆なり。酒井雅樂頭・阿部豐後守は御前にて拜領。

一、御暇の後、在國・在處へ鶴を遣さる面々は、紀伊大納言殿・尾張大納言殿・紀伊中納

言殿・水戸宰相殿・松平越後守・同陸奥守・同越前守・同新太郎・同大隅守・同相模守・同安藝守。

一、雁二宛拜領の面々、松平左京大夫・同攝津守・同出雲守・井伊掃部頭・松平刑部大輔・同播磨守・同淡路守・同但馬守・宗對馬守・伊達遠江守・丹羽左京大夫・松平下總守・本多内記・立花左近將監・松平大和守・有馬中務大輔・毛利甲斐守・小笠原遠江守・松平隱岐守・同中務大輔・同兵部大輔・同飛驒守・酒井左衞門尉・南部大膳大夫・奥平大膳亮・榊原能之助。

一、父在國の節、息へ下さるゝ面々、松平下野守・松平薩摩守・同伊豫守・同伯耆守・同信濃守・同彈正少弼・佐竹右京大夫・松平土佐守・同萬千代・森美作守、何れも上使御使役なり。

一、御前に於て雁二つづつ拜領の面々、稻葉美濃守・久世大和守・土屋但馬守・板倉内膳正。

同じく雁一つ宛拜領、土井能登守・堀田備中守・松平美作守・牧野佐渡守京所同代

一、雁一つ宛拜領の面々、戸田采女正・眞田伊豆守・大久保加賀守・内藤帶刀・松平若狹守・同越中守・本多下野守・水野民部・松平遠江守・同和泉守・青山因幡守・小笠原内匠頭・牧野飛驒守・松平丹波守・水野中務少輔・本多兵部少輔・松平日向守・同周防守・本多越前守・石川主殿頭・内藤豐前守・松平主殿守・本多飛驒守・井伊兵部少輔・松平市正・諏訪因幡守・本多中務少輔・鳥居兵部少輔・土岐山城守・稻垣若狹守・西尾隱岐守。

右上使御使役なり。

一、殿中に於て雁拜領の面々、酒井修理大夫是は二つ拜領・阿部伊豫守・水野監物・永井右近大夫・板倉隱岐守・青山大膳亮・太田備中守・小笠原山城守・酒井日向守・戸田伊賀守・松平山城守・本多長門守・内藤飛驒守・三浦志摩守・增山兵部少輔・那須遠江守

大正六年六月廿五日印刷
大正六年六月廿八日發行

國史叢書
玉露叢 二
定價金一圓二十錢

編輯兼發行者　國史研究會
右代表者　今村勝一
東京市牛込區市ヶ谷柳町二十九番地

印刷者　福山福太郎
東京市牛込區西五軒町五十二番地

印刷所　福山印刷製本所
東京市牛込區西五軒町五十二番地

不許複製

發行所　東京市牛込區市ヶ谷柳町二十九番地
（振替貯金口座東京二七〇二四番）
國史研究會

SAN-AISHA SHOTEN
電話神田二九七五番
三愛社書店